

命(めい・上坂こうさか/中沢)→	三休子(さんきゅうし・梅花軒、藩士/随筆)	M 2 0 0 2
明(めい・源)	→ 明(あきら・源、廷臣/漢学)	E 1 0 1 4
明(めい・松崎)	→ 明(あきら・松崎まづき、医者/詩文)	E 1 0 1 8
明(めい・中川/加藤)	→ 北溟(ほくめい・加藤/中川、儒者/詩)	D 3 9 9 3
明(めい・渡辺)	→ 明(あきら・渡辺、国学者)	E 1 0 1 9
明(めい・寺沢)	→ 明(阿支羅あきら・寺沢、藩士/国学)	E 1 0 2 0
明(めい・福田)	→ 明(あきら・福田ふくだ、数学者)	E 1 0 2 4
明(めい・森)	→ 海庵(かいあん・森もり、医者/侍医)	I 1 5 3 4
明(めい・近藤)	→ 文溪(ぶんけい・近藤こんどう、医者)	F 3 8 0 7
明(めい・山崎)	→ 蘭洲(蘭州らんしゅう・山崎やまさき、藩医)	C 4 8 5 8
明(めい・角田)	→ 青溪(せいけい・角田すみた/平、家老/漢学)	B 2 4 1 2
明(めい・日下)	→ 雪中(せつちゅう・日下くさか、商家/俳人)	E 2 4 5 5
明(めい・吉田/望月)	→ 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人)	D 3 8 6 0
明(めい→あきら・宮田)	→ 金峯(きんぼう・宮田みやた、藩士/儒者)	I 1 6 2 6
明(めい→あきら・小野)	→ 君山(くんざん・小野おの、書/篆刻)	D 1 7 6 5
明(めい・川崎/小島)	→ 有卿(ゆうけい・小島こじま、藩医)	B 4 6 3 5
明(めい・長尾)	→ 全庵(ぜんあん・長尾/杉本、幕臣; 医者)	L 2 4 6 1
明(めい・赤松)	→ 哲夫(てつお・赤松あかまつ、医者/蘭学)	C 3 0 1 5
盟(めい・杉野)	→ 多助(たすけ・杉野すぎの、藩士)	P 2 6 0 3
銘(めい・雛田)	→ 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌)	L 3 2 1 6
鳴(めい・井部)	→ 香山(こうざん・井部いべ、儒者/詩人)	G 1 9 3 7
明阿(めいあ→みょうあ)	→ 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学)	J 4 0 6 6
鳴蛙斎(めいあさい、鳴蛙井)→	山夕(2世さんせき・桃井ももい、俳人)	M 2 0 5 1

4300 **迷庵**(めいあん・市野いちの、名; 光彦、光紀男) 1765-1826 62 代々江戸神田の質商、儒者; 黒沢雉岡門、林述斎・市河寛斎と交流/1794家業専念のため交遊を絶つ; 学問は継続、狩谷掖斎と論争、以後朱子学を廃し訓詁学; 漢唐訓点研究/校勘を重視、1792「詩史翬」、「詩集伝筆録」、「迷庵文章」「迷庵雑考」「箕窓摘藁」「箕窓居士文稿」「好古日録」/「読書指南」編、外編著多数、[迷庵(;号)の字/通称/別号]字; 俊卿/伯邦、通称; 弥三郎/三右衛門、別号; 箕窓うんそう/酔堂、屋号; 市野屋

4305 **明庵**(めいあん・田辺たなべ、) 1822-1897 76 加賀の儒者; 世綱門、大聖寺藩儒; 藩校会頭、「明庵詩講」著、

[明庵(;号)の名/字/通称]名; 質(;初名)/**輅**ろ、字; 子冕、通称; 輅三郎/竜右衛門/竜衛

明庵道光(めいあんどこう) → 信満(のぶみつ・武田/源、武将/詩歌) D 3 5 4 6

明夷軒(めいいけん) → 兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者) 1 8 1 4

明一(めいいち; 法諱) → 明一(みょういつ; 法諱、法相僧) G 4 1 1 2

明逸(めいいつ; 法諱) → 明逸(みょういつ; 法諱、曇寧/真宗大谷派僧) G 4 1 1 3

明允(めいいん・土田/平山) → 棐(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) P 2 6 0 4

明胤(めいいん; 法諱) → 明胤(みょういん; 法諱・如々房/天台僧) G 4 1 1 4

4306 **明雲**(めいうん・みょううん; 法諱、権大納言源頭通男) 1115-83 69 天台僧; 49世最雲法親王門、1156権少僧都/60法印/67天台座主55世、六条・高倉・安徳天皇の護持僧/後白河上皇の戒師、平清盛の戒師、1177加賀白山大衆と国司藤原師高兄弟との抗争から上皇と叡山が対立: 師光(西光)父子の讒言で座主職を追われ伊豆配流中叡山衆徒により奪還; 1179座主還任、1181天台大僧正、歌人; 千載集1254、1183法住寺合戦に落命(; 平家・平治・源平盛衰記・徒然草等に信西の兵杖の観相の逸話)、[常ならぬためしは夜半はの煙けりにて消えぬ名残を見るぞかなしき]、(千載; 十九釈教1254/天王寺の仏舍利を拝む; 人生無常と仏陀の久遠の実在)、

- 明影(めいえい→あきかげ・大泉)→歌寿彦(かずひこ・大泉おおいずみ、藩士/歌人) T 1 5 9 0
- 4364 **名円**(めいえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;大和の僧;法橋、歌人、
1237素俊撰[檜葉ならは集]10首入集、
[春日社の後番の五十首に、
思ひいづる事のはしげき昔かなわすれよ月のくもりもぞする](檜葉;恋427)
- 4365 **命円**(めいえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;大和の僧;法師、歌人、
1237素俊撰[檜葉ならは集]8首入集、
[堀河院百首を題にて月なみの歌よみけるに子日をよめる、
春のいろのふたしほみゆるひめこ松こぞの子のひにたれのこしけむ](檜葉;春9)
- 明円(めいえん;法諱) → 明円(みょうえん;法諱、天台僧) G 4 1 1 7
 明円(めいえん) → 明円(みょうえん・めいえん、円派の仏師) G 4 1 1 8
 明縁(めいえん;法諱) → 明縁(みょうえん;法諱、法師/歌人) 4 3 6 8
 明遠(めいえん・中村/藤原)→ 蘭林(らんりん・中村/藤原、幕医/儒者) D 4 8 2 9
 明遠(めいえん;道号) → 明遠(みんのん;道号・俊哲、臨濟僧) G 4 1 8 4
 明遠(めいえん・成田) → 明遠(あきとお・成田なりた、藩士/儒/詩歌) I 1 0 1 8
 明遠(めいえん・山田) → 明遠(あきとお・山田やまだ、家老/詩歌) I 1 0 6 8
 迷淵蟠鯨侯(めいえんばんねんこう)→如水(じょすい・清水しみず、細工人/狂歌) M 2 2 5 7
 明応(めいおう・空谷) → 明応(みょうおう・空谷、臨濟僧) G 4 1 1 9
 明応禪師(めいおうぜんじ) → 宗璠(そうはん・玉舟、臨濟僧) I 2 5 7 4
- 4307 **明霞**(めいか・宇野うの、修姓;宇、名;鼎、士朗の兄) 1698-1745 48 先祖は近江出身/京の運漕業の家、
儒者:僧大潮・入江若水門/徂徠学を修学、病身のため弟士朗を江戸の徂徠の許に遊学、
京で徂徠学を講説/のち折衷を主に一家を立てる;片山北海・大典・芥川丹邱の師、
「論語考」「唐詩集註」「唐詩正律」「語字解」/1741「安藝竹原孝女記」外著多数、「明霞遺稿」、
[明霞(;号)の字/通称/法号]字;士新、通称;三平、法号;一到知天居士
- 迷花(めいか・泉川) → 星堂(せいどう・泉川いづみかわ、儒者/詩人) J 2 4 3 1
 明雅(めいが・西川) → 明雅(あきまさ・西川、地役人/詩人) D 1 0 8 8
 明雅(めいが・出島) → 明雅(あきまさ・出島でじま、名主/国学) H 1 0 9 9
 明快(めいかい;法諱) → 明快(みょうかい;法諱、叡山天台僧/歌) G 4 1 2 1
 明海(めいかい・山中) → 明海(あきみ・山中、酒造業/本草家) D 1 0 9 2
 明海(めいかい→みょうかい;初法諱)→実運(じつうん・じちうん;法諱、真言僧/座主) U 2 1 4 3
 迷外(めいがい;号) → 崇言(そうごん;法諱、真宗大谷派僧) H 2 5 3 2
 名花園(めいかえん) → 周子(かねこ・鍋島、歌人) O 1 5 4 7
- 4308 **鳴鶴**(めいかく・井後いご・山名、井後正因女)?-? 江中期大阪の漢学者、阿波の医者山名一学の妻、
大阪住、1791夫と肥前長崎に旅し唐船舶来書を入手;11801「三字経訓詁解」記
- 4309 **鳴鶴**(めいかく・山口やまぐち、名;直節、西里男) 1793-1827 35(一説30) 安藝広島儒者の儒者;父門、
父を継承;広島藩家老上田家の儒臣/城内上田家の講学所教授、詩文;1809亀井南冥門、
師に賞され「鳴鶴」の号を受、唱和・贈答の詩文、頼山陽が兄事、「鳴鶴詩文集」「鳴鶴雑著」、
[鳴鶴(;号)の通称/別号]通称;清助、別号;西樵
- 明覚(めいかく・唯心房) → 明覚(みょうかく/みょうがく;法諱、天台学僧) G 4 1 2 2
 明覚(めいかく→みょうかく;法諱)→ 翠峰(すいほう;道号・明覚、黄檗僧) E 2 3 9 7
 明覚(めいかく→みょうがく) → 明覚(みょうがく;法諱、真宗僧/歌人) K 4 1 6 2
 鳴鶴(めいかく・菅) → 隆珀(隆伯りゅうはく・菅すが、医者) F 4 9 4 4
 鳴鶴(めいかく・森) → 蘭斎(らんさい・森もり、医者/絵師) C 4 8 1 7
 鳴鶴陳人(めいかくちんじん) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩) B 2 4 1 7
 命鶴丸(めいかくまる・饗庭/大中臣)→ 尊宣(たかのぶ・饗庭あえば/源、武将/歌) M 2 6 6 6
 明寛(めいかん・越石) → 明寛(あきひろ・越石こしいし/藤原、藩士/歌) H 1 0 5 8
 明観(めいかん・西村) → 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1
 名喚(めいかん) → 名喚(みょうかん、俗姓;菅沼/僧/文筆家) G 4 1 2 6
 茗澗(めいかん・武市) → 瑞山(ずいざん・武市たけち、劍術/勤王派) E 2 3 5 9
- 4310 **明巖**(めいがん;道号・志宣しせん;法諱、俗姓;源)?-1515 甲斐の曹洞僧:浄牧院の辰応性寅門;嗣法、

- 武州浄牧院4世/1513石雲院に転ず、1513「大空和尚行状録」、「浄牧院聯燈録」著
 明鑑弘照禅師(めいかんこうしょうぜんじ)→ 杭州(こうしゅう;道号・克文;法諱、臨濟僧) J 1 9 5 0
 明義(めいぎ・岡田) → 明義(あきよし・岡田おかだ、勸農家;ジャガ芋栽培) E 1 0 1 2
 明義(めいぎ・岡田) → 明義(あきよし・松岡まつおか、故実家) E 1 0 1 3
 明吉(めいきち・青柳) → 監物(けんもつ・青柳あおやぎ、武道家) M 1 8 4 8
- 4311 明拳(めいきよ・梅ばい;修姓、別号;蕭卿しょうけい/間在居かんざいきよ)?-? 江中期京の詩人/俳人、
 1783俳論「間在深夜録かんざいしんやろく」著(永田観鶯・弟周岱の序);のちにこの書を周岱に贈る、
 1783維駒「五車反古」入;[瀬田夜泊 飛ぶ蛩闇の長橋かけてけり](五車反古)
- 4312 明馨(めいきよ・津田つた、字;重蔵)?-? 江後期高崎藩士;供小姓役/剣術;寺田宗有門、
 天真流剣術教授、1863「慶元軍要録」著
 明教(めいきょう) → 明教(みょうきょう;法諱、廷臣/僧/歌人) G 4 1 3 0
 明喬(めいきょう・三浦) → 明喬(あきたか・三浦みうら、藩主) I 1 0 4 9
 明鏡(明卿めいきょう・村上)→ 忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3
 明鏡(めいきょう・佐衛門太夫)→ 勝房(かつふさ・高井、神職/俳人) N 1 5 8 3
 命堯(めいぎょう・北村) → 命堯(のぶたか・北村きたむら、里正/歌人) I 3 5 2 2
 明教院(めいきょういん) → 僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8
 明経先生(めいきょうせんせい)→ 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4
 明経典閣(めいきょうてんかく)→ 江東(こうとう・清水、商家/儒者) G 1 9 4 1
- 4313 明極(めいきよく;道号・即証そくしょう;法諱、毛利正時男)1684-1767⁸⁴ 尾張曹洞僧;1692久峯寺海覚門、
 1737信濃杉本全久院住持/45尾張雲興寺住持/48丹後永沢寺転住、1751「通幻禅師行実」著、
 [明極即証の号] 号;老臥遊、
 明極(めいきよく/みんき・楚俊)→ 楚俊(そしゅん・明極みんき、臨濟僧) D 2 5 8 4
 明矩(めいく・松平) → 明矩(あきのり・松平、藩主/学芸/詩) D 1 0 7 6
 明空(めいくう;法諱) → 明空(みょうくう・字;志玉しぎよく、天台僧) G 4 1 3 2
 明空(めいくう;法諱) → 明空(みょうくう;法諱・浄土西山派僧) G 4 1 3 3
 明空(めいくう;法諱) → 明空(みょうくう;法諱、浄土僧/歌人) K 4 1 6 3
 明軍(めいぐん・余/金) → 明軍(みょうぐん・余よ/金こん、万葉歌人) 4 1 4 1
- 4314 茗溪(めいけい・河村かわむら、名;類之)?-? 江後期天保1830-44頃江戸の儒者、
 「詩学楷梯」「篆苑」著
 茗溪(めいけい) → 紫山(しざん・宋そう、楠本/南、絵師) D 2 1 7 3
 明卿(めいけい・新井) → 明卿(あきのり・新井あらい、儒者) D 1 0 7 4
 明卿(めいけい・馬場) → 竹坡(ちくは・馬場、儒者) D 2 8 7 1
 明卿(めいけい・水野) → 元朗(もとあきら・水野みずの、家老/儒者) C 4 4 0 2
 明卿(めいけい・山本) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3
 明卿(めいけい・宇/宇田川)→ 玄随(げんずい・宇田川/宇、蘭医) C 1 8 4 1
 明卿(めいけい→めいきょう・村上)→ 忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3
 明卿(めいけい・牧野) → 忠利(ただとし・牧野/源、藩主) F 2 6 3 8
 明卿(めいけい・小栗) → 常山(じょうざん・小栗おぐり/平、儒者) J 2 2 3 5
 明卿(めいけい・由比) → 演徴(のぶあきら・由比ゆい、藩士/歌人) 3 5 8 6
 明卿(めいけい・藤堂) → 高潔(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) L 2 6 7 9
 明卿(めいけい・藤沢) → 拙斎(せつさい・藤沢ふじさわ、医者) K 2 4 9 6
 明卿(めいけい・伊達) → 峰宗(みねむね・伊達だて、藩士/詩文) F 4 1 5 6
 明卿(めいけい・浅井) → 政昭(まさあき・浅井あさい、藩士/儒者) B 4 0 0 8
 明卿(めいけい・岡) → 三慶(さんけい・岡おか、漢学者) M 2 0 0 9
 明卿(めいけい・畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/銭/元木、医者/儒) J 1 5 9 1
 明卿(めいけい・畑) → 柳啓(りゅうけい・畑はた/南山、医者) D 4 9 5 4
 明卿(めいけい・宇津木) → 久徴(ひさもと・宇津木うつき/平、藩老/歌) I 3 7 5 8
 明卿(めいけい・片桐) → 政良(まさよし・片桐かたぎり/源、国学者) O 4 0 8 6
 明卿(めいけい・千原) → 夕田(せきでん・千原ちはら、詩/画/書家) D 2 4 7 6
 明卿(めいけい・植田) → 方清(みちきよ・植田うえだ、庄屋/国学/歌) I 4 1 1 7

- 明卿(めいけい・鳥山) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4
 明啓(めいけい/あきひろ?・木村) → 鐘成(かねなり・暁、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3
 明啓(めいけい/あきひろ?・赤井) → 得水(とくすい・赤井、書家) L 3 1 0 7
 明啓(めいけい・野原) → 正巧(まさよし・野原のはら/平沢、商家/歌人) R 4 0 5 0
 明溪(めいけい・北川) → 春成(はるなり・北川、絵師) 3 6 6 5
 明敬(めいけい・岡島) → 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1
 明馨(めいけい・津田) → 明馨(めいきょう・津田つだ、藩士/剣術) 4 3 1 2
 鳴卿(めいけい・竹尾/今津) → 桐園(とうえん・今津、儒者/詩文) B 3 1 5 0
 鳴卿(めいけい・金子) → 得処(とくしょ・金子、藩士/儒者) K 3 1 9 5
- 4354 **名月**(めいげつ;組連) ? - ? 江中期;江戸鍛冶橋(芝)の雑俳の組連、
 取次;1737「琴公評万句合」入、
 取次例;[仲人はうその四百を両方へ](万句合/嘘八百を二分する;それが仲人の資格)
- 4355 **名月**(めいげつ;組連) ? - ? 江中期;江戸神田紺屋町の川柳の組連、
 取次;1762「川柳評万句合」入;
 取次例;[芋でさへ頭かしらといへばゑごがられ](1762万句合/前句;うやまひにけり々々)、
 (ゑごはえぐいの訛り/頭はみな煙たがられる)
- 明月(めいげつ→みょうげつ) → 明逸(みょういつ;法諱、曇寧/真宗大谷派僧) G 4 1 1 3
 明月庵(めいげつあん) → 天翁(てんおう・鹿島、俳人) D 3 0 1 7
- 4358 **名月組**(めいげつぐみ;組連) ? - ? 武蔵府中の雑俳の組連、
 取次;1758「菊丈評万句合」入、
 取次例;[鎧着て出立てて見ても女武者](1758万句合/前句;しほらしい事々々)
- 明月楼(めいげつろう) → 普明(ふめい/ふみょう;法諱、真宗僧/詩) E 3 8 1 2
 明月楼(めいげつろう) → 太逸(ひろはや・伊東いとう/藤原、医者) L 3 7 1 1
 明賢(めいけん;法諱) → 明賢(みょうけん;法諱、叡山天台僧) B 4 1 1 2
 明猷(めいけん) → 明猷(みょうけん、僧/歌人) G 4 1 3 4
 鳴謙(めいけん・富野) → 義胤(よしたね・富野とみの/香川、医者) E 4 7 3 6
 鳴謙(めいけん・榎本) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4
 命彦(めいげん・松木) → 命彦(のりひこ・松木、神官)
 明言(めいげん・高松) → 明言(あきのり・高松、国学/歌人) D 1 0 7 8
 明言(めいげん;号) → 鉄翁(てつとう;道号・祖門そもん;法諱、臨濟画僧) F 3 0 1 6
 明玄(めいげん;法諱) → 明玄(みょうげん;法諱、歌僧) G 4 1 3 6
 明原(めいげん・小倉) → 実樞(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9
- 4315 **明五**(めいご) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」/73「明鳥」入、
 [客僧よ宵に申せし鹿の声](あけ鳥:210/秋の夜長の話:あれが宵に話した鹿声ですよ)
- 明公(めいこう;諡号) → 宗睦(むねちか・徳川/松平/源、藩主/詩歌) B 4 2 6 0
 明衡(めいこう・藤原) → 明衡(あきひら・藤原、廷臣/詩文) 1 0 1 1
 明恒(めいこう・藤原) → 明恒(あきつね・藤原、香道研究) D 1 0 5 6
 明候(めいこう・佐々木) → 了斎(りょうさい・佐々木/西村、藩士/詩歌) H 4 9 6 3
 冥鴻(めいこう;号) → 竜門(りゅうもん;道号・承猷;法諱、臨濟僧) F 4 9 7 6
 明光居士(めいこうこじ) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2
 明谷(めいこく・畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/銭/元木、医者/儒) J 1 5 9 1
 迷悟堂(めいごどう) → 又衛門(またえもん・白石、藩士/啓蒙書) J 4 0 3 5
 明根(めいこん・小堀) → 明根(あきね・小堀こぼり/村瀬、藩士/神職/歌) H 1 0 4 9
- 4316 **冥斎**(めいさい・牧江まきえ、阿部[牧江]靖斎男) ?-?天逝23歳 江後期越後糸魚川の酒造家の生、
 儒詩;藍沢朴斎門、尊王攘夷の志篤い;銀林間雲と親交、「触志録」「冥斎詩文集」著、
 [冥斎(;号)の名/別号]名;正寛/礼亮、別号;冥々斎
- 名斎(めいさい・藤/大久保) → 狭南(きょうなん・大久保、儒者) O 1 6 3 9
 明斎(めいさい・丹治) → 重治(しげはる・丹治たじひ、和算家) S 2 1 3 2
 明山(めいざん・足利) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府将軍) E 4 7 3 4
 明山(めいざん) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0

- 明山(めいざん・松平) → 乗富(のりとみ・松平まつだいら/源、幕臣/国学) F 3 5 2 5
 冥山(めいざん・田中) → 友水子(ゆうすいし・田中、俳人/文筆家) C 4 6 8 5
- 4317 冥之(めいし) ? - ? 俳人;1672重徳「俳諧塵塚」宗甫欠伸らと漢和8吟入
- 4318 明之(めいし・日高ひだか、別号;二松亭、五明ごめい男)1775-184167 日向城ヶ崎の酒造業/俳人:父門、祖父菊路も俳人、1818父の古稀賀集「松賀左根」(弟路牛と共編)/父三回忌「もとの月夜」編、三回忌追善集「さぐりつけしう」(菊人・明丸編)
- 明子(めいし・藤原、染殿皇后、良房女)→ 明子(あきらけいこ・藤原) 1 0 3 9
 明子(めいし・源、高明女、道長妻)→ 高松上(たかまつのうえ) D 2 6 7 7
 明子(めいし・藤原、順時まさとき女)→ 弁乳母(べんのめのと、歌人) 2 7 0 7
 明子(めいし・藤原、宰相女)→ あきらけい子(明子あきらけいこ・藤原) C 1 0 8 8
 明司(めいし・村上) → 忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3
 明之(めいし・香取) → 明之(てるゆき・香取、狂歌師) D 3 0 0 4
 名子(めいし、日野資名女)→ 竹向(たけむき、西園寺実俊母、日記) 2 6 2 2
 冥子(めいし) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
 蓑之(冥のめいし・浅岡/浅井)→ 芳所(ほうしょ・浅岡/浅井、藩儒) B 3 9 6 6
 名士閣(めいしかく) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤、絵師) F 2 1 9 9
 明時館主人(めいじかんしゅじん)→ 景佑(かげすけ・渋川しぶかわ、天文曆算家) K 1 5 9 2
 名実(めいじつ・矢田部) → 名実(なざね・矢田部、漢学/歌人) G 3 2 6 2
 明実(めいじつ) → 明実(みょうじつ、平安後期の絵師) G 4 1 3 9
 明実(めいじつ・日高) → 耳水(じすい・日高ひだか、藩儒/詩文) T 2 1 9 7
 明実(めいじつ・魚住) → 明誠(あきのぶ・魚住うおずみ、藩士/国学) H 1 0 1 1
- 4319 明之坊(めいしぼう) ? - ? 尾張名古屋の俳人、横井也有と交流、1758俳諧撰集「巻通しまきとおし」編(;平曲巻通に因む連句/当時名古屋で平曲が流行)
- 明寿(めいじゅ・三隅) → 丈八(じょうはち;通称・三隅みすみ、惣庄屋) L 2 2 4 1
 明珠庵(めいしゅあん) → 釣月(ちようげつ、歌人) I 2 8 0 5
- 4320 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、名;元良、元恵男)1800-6869 伊予新居郡立川村の農家の生、1819松山で修学/儒;大高坂おたかさか天山門/心学:田中一如門;一如没後に六行舎教授、1827江戸の心学者大島有隣門;[善導印鑑]を受領/29松山帰郷/35江戸で[三舎印鑑]を受、1837帰郷;以後全国的な心学振興に尽力、「名洲詩草」「名洲文艸」「元良歌集」「心学問答」著、「海陸日記」「州南形声集」「江竜襟記」「心学道話集」「心学要語集」「本心学聴」著、[名洲(;号)の字/通称/別号]字;平格、通称;広吉/平作、別号;安楽閑人/安楽道人/南松山人/州南処士/二名嶋処士
- 明秀(めいしゅう;法諱) → 明秀(みょうしゅう;法諱、浄土宗西山派僧) G 4 1 4 0
 名秀(めいしゅう・芝崎) → 直子(なおこ・芝崎しばさき/荷田、国学/歌) N 3 2 3 2
- 4321 明叔(めいしゅく;道号・慶浚けいしゅん;法諱)?-1552 臨濟僧:幼時に出家/景堂玄納門;得度、諸師に参禅後に景堂玄納に嗣法、甲斐恵林寺中興/美濃愚溪寺・大円寺住/京妙心寺住、尾張瑞泉寺・大心寺住持、「明叔和尚語録」著
- 鳴春(めいしゅん・鳥山) → 芝軒(しげん・鳥山とりやま、書家/詩人) D 2 1 4 5
- 4366 明順(めいじゅん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、1237刊[檜葉集]入、[建久八(1197)年春日後番の歌合に山花盛、たづねいる人にならひてさくらばな花のさかりと風にしらすな](檜葉;春47)
- 明順(めいじゅん;法諱) → 明順(みょうじゅん;法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 4 3
 命助(めいじょ・山本) → 澹斎(たんさい・山本/福富、医/儒者/詩) I 2 6 1 7
 明章(めいしょう・田原) → 直助(なおすけ・田原たわら、蘭学/洋式軍船) B 3 2 3 8
 明祥(めいしょう・向井) → 明祥(あきよし・向井むかい、国学者) I 1 0 5 3
 明証菴(めいしょうあん) → 松陰(しょういん・高内たかうち、和漢学/武芸) G 2 2 8 3
 明照大師(めいしょうだいし/みょうしょう-) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
 鳴讓堂(めいじょうどう) → 丘高(きゅうこう・笹ささ、神風館13世/俳人) M 1 6 5 2
 銘四郎(めいしろう・花木) → 重辰(しげとき・花木はなき、藩士/歌人) Z 2 1 7 0

- 明親(めいしん・大中臣) → 明親(あきちか・大中臣おおなかとみ、廷臣/歌) 1 0 7 2
 明親(めいしん・衣笠) → 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1
 明心(めいしん) → 貞徳(ていとく・松永、歌/俳人) 3 0 0 8
 明真(めいしん・小杉) → 明真(昭真あきざね・小杉、和学/歌) D 1 0 4 2
 明信(めいしん;法諱) → 明信(みょうしん・禅忍房、密教僧/歌人) L 4 1 2 6
 明信(めいしん;法諱) → 明信(みょうしん;法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 4 4
 明信(めいしん;字) → 浄慧(じょうえ;法諱、真宗高田派僧) H 2 2 1 2
 明信(めいしん・湯浅) → 明信(あきのぶ・湯浅ゆあさ、藩士/詩人) D 1 0 7 3
 明信(めいしん・あきのぶ・加藤) → 主一郎(しゅいちろう・加藤、藩士/詩人) W 2 1 5 1
 名臣(めいしん・神代) → 名臣(あきおみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0
 命親(めいしん・北村) → 命親(のぶちか・北村きたむら、国学/歌人) I 3 5 2 3
 名垂(めいしん・あきのぶ・沢田) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学) 3 2 2 3
- 4360 明随(めいずい・あきより?・加藤かとう/本姓;藤原、通称;三左衛門)?-? 江後期;旗本/相模の地頭、
 1839(天保9)相模藤沢の日枝神社本社覆殿の再建者の1(福原高峯・村岡良毅らと)、
 歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [初瀬山尾上の月の影晴れてしもにさえゆく暁の鐘](大江戸倭歌;雑1745/古寺鐘)
- 4322 命助(めいすけ・瀬山せやま、資福男) 1807or1808-5953or52 陸中盛岡藩士;江戸藩邸下屋敷の生、
 1821盛岡藩に出仕、1824藩主南部利用の御供で盛岡へ、25藩主利済の小姓役、
 御広間取兼帯、経学;東条一堂門、
 1829江戸留守居本役;諸藩の人脈により藩内の凶作・一揆の窮民を救う、
 交際費の嵩み・同輩の嫉妬などで1834免職、49藩主跡目相続の争いに連座;他出差留処分、
 1853藩主利綱により御勝手御用掛に復帰;御供として盛岡に帰国/55致仕、
 「宇多々寐の間加記」、1859「思出艸」著、
 [命助(;通称)の名/字/号]名;資章すけあき、字;子基、号;山子/南台/電庵
- 4323 命助(めいすけ・三浦みづら) 1820- 1864獄死45 父は陸中閉伊郡栗林村肝入/幼時遠野の寺子屋入、
 羽後秋田院内の鉾山労役/釜石・花巻間の商取引に従事/1853盛岡藩悪政への一揆を指導、
 脱藩し上京/1857二条家家臣と称し帰郷;盛岡藩領平田番所で捕縛/獄死、「獄中記」著、
 [命助(;名)の通称/法号]通称;六右衛門、法号;天皇白清禅居士
- 名輔(めいすけ・平山) → 静(しずか・平山ひらやま、歌人) T 2 1 0 1
- 4324 命政(めいせい) ? - ? 江前期京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- 4162 明声(めいせい・三上みかみ、法諱;至成院/号;柳田) 1848-191164 近江滋賀郡堅田の本福寺住職、
 歌人;服部春樹門/詩歌;毘尼薩泰巖たいごん門/歌;須川信行門、歌;[鳩のうみ]入
- 明成(めいせい・坂上) → 明成(あきなり・坂上さかのうえ、南北期明法家) D 1 0 6 8
 明正(めいせい・佐羽内) → 与次右衛門(よじえもん・佐羽内さわうち、馬術家) C 4 7 2 8
 明生(めいせい・今村) → 源右衛門(げんえもん・今村、阿蘭陀通詞) H 1 8 9 1
 明世(めいせい・坂上) → 明世(あきよ・坂上さかのうえ、室町期廷臣) E 1 0 0 5
 明清(めいせい)すべて → 明清(あきよ)
- 明誠(めいせい・石王) → 塞軒(そっけん・石王いしおう、儒者) E 2 5 0 2
 明誠(めいせい・魚住) → 明誠(あきのぶ・魚住うおずみ、藩士/国学) H 1 0 1 1
 明静(めいせい;法名) → 定家(さだいえ/ていか・藤原、廷臣/歌人) 2 0 1 6
 明誓(めいせい;法諱) → 明誓(みょうせい;法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 4 7
 明石庵(めいせきあん) → 白牛(はくぎゅう・雪堂、医者/俳人) C 3 6 9 3
 明静院(めいせいいん) → 法定(ほうじょう;法諱、真宗高田派僧) B 3 9 7 7
- 4325 明暹(めいせん/みょうせん;法諱、文章博士藤原明衡男) 1059-112365 平安後期大和の興福寺法相僧;
 1110維摩会講師/三会已講、尾張の得業円憲門or玉手公頼門か?、
 雅楽(特に笛)の名手/大般若読経の際演奏し堀川院より御物の般若笛を賜る、
 「明暹笛譜」(散佚)、1095「新撰龍吟抄要録」著、
 藤原敦基(1045-1106)・敦光(1063-1144)の兄弟、
- 4367 明暹(めいせん/みょうせん;法諱、西園寺実明[1143-1222])?-? 平安鎌倉期;叡山天台僧;蓮華院執行、
 公雅(権大納言)・公綱の弟/明弁(東寺僧正)・公縁(興福寺権僧正)の兄、公暹・覚乗の父、

歌人;1237刊[檜葉集]入(明暹法師名)

[庚申の夜人々歌よみ侍りけるに、

みかりのにすだくきぎすの声しげみたちみにものを思ふころかな](檜葉;恋491)

鳴川(めいせん・生川) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9

明仙(めいせん・浦野) → 光護(みつり・浦野/柳井、藩士/農政) E 4 1 4 6

明洗(めいせん→みょうせん;法諱)→ 姫岳(きぎく;号・明洗、天台僧/俳人) J 1 6 8 4

明専(めいせん;法諱) → 明専(みょうせん;法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 5 0

明詮(めいせん;法諱) → 明詮(みょうせん;法諱、法相学僧) G 4 1 4 8

4326 明善(めいぜん・石河いしかわ、名;幹克/幹修、徳五郎幹忠男) 1819-6850 常陸の儒者:杉山復堂門、
のち会沢正志斎門、水戸藩に出仕;弘道館訓導/助教、「明善日記」「詩説訓蒙」、
「弘道館創立意見書」「弘道館記述義評言」著、
[明善(;号)の通称/別号]通称;幹二郎、別号;公磊こうらい

明善(めいぜん・湯浅) → 明善(あきよし・湯浅、藩士/文筆家) E 1 0 0 8

明善(めいぜん・沢野) → 明善(あきよし・沢野さわの/藤原、藩士/歌) H 1 0 7 0

明禅(めいぜん;法諱) → 明禅(みょうぜん;法諱、天台僧/浄土教) G 4 1 5 2

明善館(めいぜんかん) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9

明善堂(めいぜんどう) → 乾斎(けんさい・中井、漢学者/詩人) E 1 8 1 2

4327 明叟(めいそう) ? - ? 連歌;1684-88頃「石鼎集」漢和連歌入

明叟(めいそう→みんそう;道号) → 彦洞(げんどう;法諱、臨濟僧) C 1 8 7 9

明宗(めいそう・鷹栖/朝倉) → 明宗(あきむね・鷹栖たかす、藩士/連歌) D 1 0 9 9

明宗(めいそう;法諱) → 明宗(みょうしゅう;法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 4 1

明増(めいぞう;法諱) → 明増(みょうぞう;法諱、本願寺派僧/国学) G 4 1 5 4

明則(めいそく・山室) → 明則(あきのり・山室やまむろ/白井、藩士/歌) I 1 0 7 1

明尊(めいそん;法諱) → 明尊(みょうそん;法諱、天台園城寺僧/歌) G 4 1 5 5

盟臺(めいだい・中田) → 憲信(のりぶ・中田なかつ、神職/国学/司法) F 3 5 4 1

名達(めいたつ・春澄) → 善繩(よしただ・春澄はるずみ、漢学者/詩) E 4 7 2 1

明達(めいたつ;法諱) → 明達(みょうたつ;法諱、天台僧) G 4 1 5 6

明脱(めいだつ) → 観中(かんちゅう;法諱、天台僧) R 1 5 3 8

明達院乗徳(めいたつじんじょうとく) → 乗徳(じょうとく・明達院、真宗僧/歌) U 2 2 9 8

女市(めいち・俳名) → 新四郎(初世しんしろう・姉川、歌舞伎役者) E 2 2 6 7

明智(めいち;字) → 盛誉(じょうよ;法諱・明智・華厳僧) L 2 2 7 8

明致(めいち・善波) → 明致(あきむね・善波よしなみ、藩士/歌人) E 1 0 0 0

名竹(めいちく・小野) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6

明忠(めいしゅう・越石) → 明秋(あきとし・越石こいし、藩士/歌人) H 1 0 5 7

鳴虫(めいちゅう・錦亭) → 錦亭鳴虫(きんていなきむし、絵師) I 1 6 1 7

名潮(めいちゅう/なしお?・恩田) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4

命朝(めいちゅう・金子) → 命朝(のぶとし・金子かねこ、薬商/歌人) B 3 5 1 2

明陳(めいちん・能勢) → 明陳(あきのぶ・能勢のせ、藩士/儒者) I 1 0 2 3

明通(めいつう;法諱) → 明通(みょうつう/めいつう、僧/歌人) G 4 1 5 9

命貞(めいてい・有沢) → 命貞(のりさだ・有沢、藩士/軍学者) E 3 5 5 6

命貞(めいてい・榎田) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8

明貞(めいてい;法諱) → 明貞(みょうじょう;法諱、天台僧) H 4 1 3 0

明亭(めいてい・生駒) → 信億(のぶのり・生駒いこま、歌人) H 3 5 2 5

4328 明哲(めいてい・村田むらた) 1816- 187863 陸前仙台藩士;1851大番士/掌天学師、天文家、
嘉永1854-60頃軍艦製造企画/62千島列島測量、「天保壬寅元暦法」/1858「秒度定刻範」、
「安政七年庚申歳晴雨考」/1862「運気晴雨考」、「蝦夷領ネモロ地理誌」外著多数、
[明哲(;号)の通称/別号]通称;善次郎、別号;尺蠖子しゃくかくし(尺蠖は尺取虫)

明伝(めいでん;法諱) → 明伝(みょうでん;法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 6 1

4329 明投(めいとう;法諱、巖寶がんとう;道号)?-? 鎌期臨濟僧:大明国師無関普門門、
「大明国師行状」編

- 4330 **明堂**(めいどう・木村きむら、名;温) 1810-5546 常陸の儒者:中井乾斎門、講説業、
1850「古今絶句所見集」校訂、52「飯沼観蓮集」編、
[明堂(;)の字/通称/別号]字;士新、通称;新六、別号;鼎齋
明道(めいどう→みょうどう;法諱)→ 通方(つうほう道号・明道、臨濟僧) 2 9 4 4
明道(めいどう;法諱) → 明道(みょうどう;道号・宗詮、臨濟僧) G 4 1 6 5
明道(めいどう;法諱) → 明道(みょうどう;法諱、真言僧) G 4 1 6 6
明道(めいどう/みょうどう) → 慈性親王(じしょうしんのう、天台僧/日記) T 2 1 8 6
明洞(めいどう→みょうどう;法諱)→ 法雲(ほううん;道号・明洞、黄檗僧) D 3 9 8 4
明堂(めいどう;字・諦濡) → 諦濡(たいじゆ/ていじゆ;法諱・明堂、真言僧) K 2 6 1 5
名道(めいどう・村上) → 影面(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者) B 1 5 9 7
明堂古鏡禪師(めいどうこきやうぜんじ)→ 紹滴(しょうてき;法諱・一凍;道号、臨濟僧) L 2 2 0 3
明道上人(めいどう→みょうどうしようにん)→ 照源(しょうげん;法諱、天台学僧) I 2 2 5 3
- 4331 **明德**(めいとく・岡野/岡埜おかの?)- ? 江戸期大阪の医者:古医方、
「古医余方」「長沙医方」「瘍科名証附方」、
[明德(;)の号] 原壱げんいつ/惟馨いけい/瓊海けいかい
明德(めいとく・善波) → 明德(あきのり・善波よしなみ、藩士/歌) D 1 0 7 9
明德(めいとく・小林) → 元有(もとあり・小林こばやし/林、国学者) J 4 4 9 5
明德(めいとく・鯉淵/石川)→ 清賞(せいしょう・石川いしかわ、藩士/儒者) I 2 4 8 2
明德(めいとく・青方) → 簡斎(かんさい・青方あおかた、藩家老/洋学) Q 1 5 6 5
- 4332 **溟南**(めいなん・谷頭やがしら、名;清万/有寿、吉重男) 1820-8162 豊前小倉藩士、儒者:矢島守中門、
のち川江玄洲・佐久間果園門、1846竜松軒を開塾、66九州征討軍に船手記録方で従軍、
維新後は京都みやこ郡豊津に移住させられる;子弟教育、「溟南詩集」著、
[溟南(;)の字/通称/別号]字;山民、通称;文蔵、別号;痴客/芥東野人
- 4301 **姪娘**(めいのいらつめ、石川夫人?)- ? 万葉挽歌154(石川夫人;諸説)、
→ 石川夫人(いしかわのぶにん) 1 1 8 9
明発(めいはつ・小杉) → 楹邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6
明彬(めいひん・吉用) → 明彬(あきよし・吉用よしもち、藩士/国学) I 1 0 8 1
明敏(めいびん)すべて → 明敏(あきとし)
明夫(めいふ・大久保/滕)→ 狭南(きょうなん・大久保、儒者) O 1 6 3 9
明夫(めいふ/あきお・渡辺) → 去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人) H 1 6 1 0
明夫(めいふ・桑そう/桑山)→ 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2
名蕪(めいぶ) → 鸞太(らんたい・中村なかむら、俳人) C 4 8 8 9
鳴風館(めいふうかん) → 吟山(ぎんざん・佐藤さとう、郷士/俳人) E 1 6 0 7
明復(めいふく・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつさき、儒者) 1 9 1 7
命平(めいへい→のぶひら・櫻田)→ 玄覚(げんかく・櫻田かした/平/橋本、藩医/本草) I 1 8 2 5
- 4333 **明浦**(めいほ・篠田しのだ/初姓;島田しまだ、名;定考) 1728-8053 江中期江戸の書家:大橋流を修得、
篠田行休の名跡を嗣、のち関思恭門/明浦流を興す、湯島天神裏門前御徒士町に住、
「明浦和文章」「角田川帖」書/1762「筆法温知書」71「俚語千字文」、79「書札集」「四時用帖」書、
[明浦(;)の字/通称/法号]字;子信、通称;五郎蔵、法号;天朗院
明甫(めいほ・あきすけ?・寺澤)→ 牛岩(ぎゅうがん・寺澤てらさわ、詩人) T 1 6 5 2
名輔(めいほ・平山) → 静(しずか・平山ひらやま、歌人) T 2 1 0 1
- 4334 **明峰**(めいほう;道号・素哲そてつ;法諱、俗姓;富樫) 1277-135074 加賀の曹洞僧:初め天台寺院で出家、
のち曹洞宗加賀大乘寺の瑩山紹瑾門;嗣法、1325能登永光寺住持/加賀大乘寺住持、
越中光善寺の開山;法系を明峰派と称す、「明峰仮名法語」「智首座に与ふる法語」
- 4335 **明峯**(めいほう・深田ふかだ、名;正清、円空男) 1639-170769 尾張名古屋藩儒:父門;1663父を継嗣、
天文にも通ず、京で没、「瑤璣玉衡図」著、
[明峯(;)の字/通称]字;晋甫、通称;宗信/正室
- 4336 **鳴鳳**(めいほう) ? - ? 浪花の俳人;1776凡董「続明鳥」2句入、
1776道立「写経社集」3句入/76樗良「月の夜」1句入、
[月出いでて手縄もつるゝ鶴舟哉](続明鳥;甲253/篝火では見事にさばく綱が月で乱れる)

- 4337 **溟北**(めいほく・円山/丸山まるやま、名;葆いげる、旧姓;小池)1818-9275 佐渡夷町の生/儒者;円山学古門、
学古の養子、相川修教館で修学/江戸の佐藤一斎・亀田綾瀬門;綾瀬の塾頭/1840帰国;開塾、
のち相川修教館教授/1861土籍に列す、維新後;度津神社宮司/教育に尽力;中教正、
「諸肆小言」「談書奇標」著、
[溟北(;号)の字/通称/別号]字;子光、通称;三蔵/三平、別号;与古為徒斎/撫孤松園、
日本花園/宛在水中央漁者/浮海窩老人/鼈浦/二十八浦釣史/水飲百姓軒/赤川隠士、
囂々居士ごうごうこじ/九葆、諡号;文淑先生
- 4356 **めいぼく**(;組連) ? - ? 江戸本郷の川柳の組連;
1777-79「川柳評万句合」入
[済まぬもの婿も無いのにばどあ来る](1779万句合/ながめ社こそすれ々々)、
(あの家は婿を取ってもいないのに産婆が来た;ただでは済むまい)
伽羅庵(めいぼくあん) → 旨原(しげん・小栗、俳人) D 2 1 4 9
- 4338 **冥々**(めいめい・塩田しおだ、名;為春、佐々木ささき治右衛門男)1741-182484(1816没説76) 岩代郡山の生、
母方の叔父で岩代本宮の塩田長十郎の養嗣子/蚕種商を業とす/俳人:白雄門、諸国を行脚、
謡曲;観世流・書を嗜む、兄露秀も俳人、1795丈左「八僊歌」入、1801「栗まき集」編、
「黒塚集」「鎌倉紀行」「傀儡集」「毛遊目録」著/1824「東奥九淵斎冥々道人句集」、
[石門崎嶇きくとして雲とび霧の走る哉](題;登白雲山)、
[冥々(;号)の通称/別号]通称;茂兵衛、別号;九淵斎
迷々(めいめい・井田) → 寒涯(かんがい・井田いだ、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6
冥々庵(めいめいあん) → 寒涯(かんがい・井田いだ、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6
溟々居(めいめいきよ) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/俳人、諸芸) 3 9 1 3
明々斎(めいめいさい) → 菟乎(みんこ・杓掛くつかけ、農家/俳人) G 4 1 7 9
冥々斎(めいめいさい) → 冥斎(めいさい・牧江まさえ、漢詩人) 4 3 1 6
明々窓(めいめいそう) → 公美(きんえ・竜りゅう・たつ草廬、詩人) E 1 6 8 7
- 4339 **鳴門**(めいもん・田中たなか/修姓;田、名;章)1722-8867 近江栗田郡の出身;
大阪鳴門橋畔の同族田中家の継嗣、鑄造業;鍋釜の鑄造、句読;武村勝重門/儒詩;菅甘谷門、
1765片山北海らと詩社混沌社結成、混沌社の中心人物、
「那羅延窟草」「伐闍羅遊草」「愛日園稿」「芳野新詠」「論語微旁通」「毛詩字帖」著、
1784還暦賀集「寿言百朋」編、「子明遺稿」、追善「愛日余哀」(;勝利章編)、
[鳴門(;号)の字/通称/別号]字;子明、通称;金屋七郎右衛門、別号;愛日園
- 4340 **鳴門**(めいもん・井川いかわ/本姓;橋)1751?-180555? 阿波名東郡沖浜村の書家/絵師:墨梅画精通、
武術を修得、京で書を教授/名古屋で文人と交遊/晩年は江戸神田佐久間町で絵師業、
「雪下園画梅譜」画/1801「書則」01「淑慎斎先生書話」、「井川先生書則」、
[鳴門(;号)の名/字/通称/別号]名;貢、字;君錫、通称;源兵衛、
別号;雪下園/淑慎斎/淡墨斎/四国老猿、法号;英岳院
- 4341 **鳴門**(めいもん・荒井あらい、名;公廉/豹、公綱男)1775-185379 阿波の儒者:1788(14歳)那波魯堂門、
1791大阪の奥田松齋門/京の皆川淇園・佐野少進門/1818江戸の林述齋門;程朱学修学、
山城淀藩に出仕、詩・書に長ず、「四書挿字句解」「豹菴隨筆」「芳野新詠」「江湖詩鈔」、
「芸苑名言」「学庸嵌註」/1799「古今名諺」1805「五条施教」16「浪華四時雜興百首」外著多数、
[鳴門(;号)の字/通称/別号]字;廉平/斑蔵、通称;半蔵、別号;豹庵/螻屈軒/南山
- 4342 **鳴門**(めいもん・鈴木すずき、名;積、鈴木芙蓉の養子)?-1840 阿波徳島の指物師の家の生、京で画修得、
江戸の徳島藩絵師鈴木芙蓉門;内弟子ののち養嗣、徳島藩絵師として江戸三田藩邸住、
山水画・人物画に長ず/詩文を嗜む、1819「鳴門画譜」画、
[鳴門(;号)の字/通称/別号]字;一善、通称;清次郎/源兵衛、別号;淡墨斎、法号;鳴門院
- 4363 **明融**(めいゆう/みょうゆう;法諱) ?- ? 鎌倉期;法師/歌人;1310為相撰?[柳風抄]入、
[またれつる心づくしもいつはりに思ひはてよとふくる月影](柳風抄;恋134)
- 4343 **明猷**(めいゆう;法諱) ? - ? 長門豊浦郡桜井八幡宮の社僧;竜泉寺の僧、
連歌:1480宗祇の筑紫道旅で豊浦宮(忌宮社)訪問時の宮司武内忠国邸「何人百韻」に参加、
宗祇「筑紫道記」に入
- 4344 **明融**(めいゆう/みょうゆう、上冷泉為和ためかず男)1513?-8270 時宗僧;1534越前藤沢二十五代上人門、歌人、

父のいた駿河を中心に各地行脚/1559上洛;3月月次会・7月当座会・8月月次会など歌会催、
 実澄・紹巴と交流/駿河歌壇の指導者、「明融本源氏物語」筆、「冷泉明融書」著、
 [明融(法諱)の通称]荷月斎/等覚/慈花庵、冷泉為益の兄

- 明友(めいゆう・松本) → 明友(あきとも・松本まつとも/源、藩士/歌) I 1 0 4 8
 名誉(めいよ・実蓮社) → 学天(がくてん;法諱・因順、浄土僧) K 1 5 2 6
 明誉(めいよ・澄蓮社) → 古礪(こかん;法諱、浄土僧/絵師) L 1 9 9 5
 明誉(めいよ・宣蓮社) → 普寂(ふじゃく;法諱、浄土僧) C 3 8 6 9
 明陽(めいよう・千村ちむら) → 峯陽(とうよう・千村、儒者) H 3 1 8 7
 明理(めいり・藤原) → 明理(あきまさ・藤原、歌人) C 1 0 5 8
 明理堂(めいりどう) → 庄兵衛(しょうべえ・中野、藩士/和算家) L 2 2 5 6
 明良(めいりょう・田口) → 明良(あきよし・田口、書肆/書誌学) E 1 0 1 0
 明了(めいりょう) → 月感(げっかん;法諱、真宗僧) G 1 8 9 3
 明了(めいりょう;字) → 猛火((もうか;法諱、真宗僧/書・詩) 4 4 4 8
 明僚(めいりょう・伊野辺) → 看斎(かんさい・伊野辺/伊野部いのべ、将棋士) Q 1 5 5 2
 明了房(めいりょうぼう) → 信範(しんぱん;法諱・明了房、真言僧;韻学) 2 2 6 9
 明倫(めいりん) → 澄融(ちようゆう、天台僧/声明) K 2 8 0 0
 明倫(めいりん・富永) → 仁里(じんり・富永/興津、儒者/教育) Q 2 2 0 5
 明倫堂(めいりんどう;塾号) → 執斎(しっさい・三輪みわ/沢村、儒者/歌) E 2 1 8 8
 明麗(めいれい・小槻) → 明麗(てるつら・小槻おづき/壬生、廷臣) C 3 0 8 1
 冥霊堂(めいれいどう) → 一品(いっしょう・芳賀はが、医/俳人) B 1 1 5 0
 明礼堂(めいれいどう) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
 命蓮(めいれん) → 命蓮(みょうれん、信貴山僧/奇蹟譚) G 4 1 7 1
 名蓮社号誉称阿(めいれんしゃごうよしゅうあ) → 徳本(とくほん、浄土僧) L 3 1 4 6
 名蓮社称誉円阿(めいれんしゃしゅうえんあ) → 眞察(しんさつ;法諱、浄土僧) O 2 2 6 2
 明蓮社顕誉(めいれんしゃけんよ) → 祐天(ゆうてん;法諱、浄土僧) D 4 6 4 6
 明蓮社聡誉(めいれんしゃそうよ) → 西仰(ゆうこう;法諱、浄土僧) B 4 6 5 8
 鳴滝(めいろう) → 実業(さねなり・清水谷/藤原/三条西/堀、権大納言/歌) 2 0 4 4
 名六(めいろく・小俣) → 嬖庵(かくあん・小俣こまた/おまた、商人/篆刻) J 1 5 4 3
 目隠(めかくし・かくれん坊) → かくれん坊目隠(かくれんぼうめかくし、僧/狂歌) E 1 5 8 2
 和布刈(めかり・早鞆、狂歌) → 保己一(ほきいち・埴はなわ、検校/国学) 3 9 6 0

4351 目黒道成(めぐるのみちなり) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」2首入:369/488
 [寄蕎麦恋 君がそば離れしよりははしたなく涙の露に袖しぼり汁](才蔵集)

4361 愛姫(めごひめ・伊達だて、三春城主田村清顕女) 1568-1653 86 母;正室の於北(相馬顕胤女)、
 1579(天正7)陸奥仙台藩主伊達政宗の正室、政宗暗殺未遂事件関与の疑念で乳母が殺害、
 愛姫付の侍女の多くが死罪;夫婦不仲、京の聚楽第伊達屋敷に移住後に夫婦仲修復;
 五郎八姫(松平忠輝室)・忠宗(仙台藩2代藩主)・宗綱・竹松丸の4人出産、京で外交官的役割、
 歌人、1626(寛永13)政宗没;瑞巖寺雲居禅師門;仏門に入り落飾;陽徳院と称す、
 [愛姫(名)の通称/院号]通称;田村御前、院号;陽徳院

- 飯盛(めしもり・宿屋やどやの) → 雅望(まさもち・石川、旅宿業/狂歌) 4 0 2 1
 目白山人(めじろさんじん) → 宗瑞(3世そうざい・松井まつい、俳人) I 2 5 1 3

4350 目白押合(めじろのおしあい) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入:128
 [空をゆく山ほとゝぎすそれならで地にもはねある初鯉かな](才蔵集128)

- 眼槻岡敷(めつきおかしき) → 兎毛(とも・関せき、藩士/詩/狂歌) P 3 1 0 3
 滅宗(めつそう・めつしゅう号) → 天桂(てんけい;道号・伝尊;法諱、曹洞僧) D 3 0 3 9
 滅度院(めつどいん;号) → 靈曜(れいよう;法諱、真宗大谷派僧) 5 1 6 9
 滅方海(めつぼうかい) → 銅脈先生(どうみやく・畠中観斎) 3 1 2 2
 愛亭(めでてい) → 笑顔(えがお・美図垣みづがき、書肆/戯作) 1 3 5 2
 馬道(めどう・雪解/浅草) → 浅草馬道(あさくさのうまみち、狂歌) D 1 0 0 1

4345 女鳥王(めどりのおおきみ、紀;雌鳥皇女めどりのひめみこ、応神天皇皇女) ?-? 殺害 母;宮主矢河枝姫(宅媛)、
 兄仁徳天皇の求婚使者である兄速総別王はやぶさわけのおおきみと婚/天皇に共に追討され殺害、

八田皇女の妹、記歌謡2首；

[雲雀は 天に翔る 高行くや 速総別 鷓鴣ささぎ取らさね] (古事記；下/仁徳は大雀おおささぎ命)

→ 速総別王(はやぶさわけのおおきみ、応神天皇皇子) F 3 6 7 3

瑪蜂(めほう) → 同庵(どうあん・大塚おおつか、蘭学/医者) 3 1 9 3

4357 女柳(めやなぎ) ? - 1786 江中期川柳作者；初世川柳の妻(微妙院)か？

1786女柳追善句会(誹風柳多留二一篇入)

4303 女雷(めらい、歌女吉かめきち/2世都々一坊)?-1867 女性落語家/音曲咄；初世[扇歌]門、得意；謎解き

4346 晁(めん・西川にしかわ) ? - ? 江中期伊賀の儒者；清田せいだ僂叟たんそう[1719-85]門、

1768僂叟「藝苑談」備前の高田潤と校正

晁(めん・満生) → 大麓(だいろく・満生みつお、儒者) L 2 6 3 9

綿衣先生(めんいせんせい) → 南坡(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒) J 3 2 3 6

免円(めんえん) → 全史(ぜんし；号、免円、俳人) F 2 4 7 9

綿嶽(めんがく；号) → 汝岱(じょたい；法諱・若霖；字、本願寺派僧) M 2 2 6 8

4352 眠牛(初世めんぎゅう・増田、暎庵/葡萄庵ほぶくあん) 1719-1771 53 江戸俳人；蒼狐門、宗因座沾涼側点者、
1754竹翁「俳諧童の的」点句入、敲石(葡萄庵2世)の師

4353 眠牛(3世めんぎゅう・増田、古竹園/雪窓)?-? 江戸本郷竹町俳人；蒼狐系、江戸座点者、

1848沾山7世「俳諧鱗はいかいけい」27点句入

免狂(めんきやう・藁科) → 松伯(しょうはく・藁科わらしな、藩医/詩人) L 2 2 3 6

晁嶠陳人(めんきやうちんじん) → 冠山(かんざん・松平、藩主/地誌) D 1 5 8 0

4304 免孔(めんこう・井本いもと、精行男) 1748-99 52 美濃野村藩士/戸田家奉行；父継嗣、
俳人/華道/茶を嗜む、1789「十かへりの花」編/93「鷹の石ぶみ」(子蔵・弟為蝶いちやうと共編)
[免孔(；号)の名/通称]名；敦高、通称；彦吉

4347 綿山(めんざん・柚木ゆのき、名；太玄たいげん/字；仲素、陸忠男)?-1788 近江蒲生郡下迫村の眼医、
儒；江村北海門、京の下立売で眼科医業/1764法眼、1785「世説新語補系譜」著、「綿山詩稿」
知雄の弟、太淳たいじゅん・太輔たいゆうの父

綿山(めんざん・安井) → 顕比(あきちか・安井、藩士/日記) D 1 0 5 3

面山(めんざん；法諱) → 瑞方(ずいほう；道号・面山、曹洞宗僧) 2 3 8 6

4348 面堂安久楽(めんどうあぐら；号、姓；藤木ふじき) 1799-1881 83 江戸日本橋万町の仕立職(大名家出入り)、
狂歌；鹿都部真顔門；二葉連判者、1854「狂歌節用集」編・「摘葉集初輯」/60「狂歌檜林集」編、
1861「狂歌早引節用集」編/63「今様六帖題詠集」編/63-64「今歌六帖題詠集」編、
1864「一字題詠集」編/67「俳諧歌広幡集」、「狂歌東西集」、「歌仙肖像集」外編著多数、
[面堂安久楽(；号)の通称/別号]通称；彦八、

別号；面堂安久羅/倭文纏居しずのまとい/長糸房針持/古面堂/古面翁

免徳斎(めんとくさい) → 日然(にちねん；法諱・事妙院、日蓮僧) D 3 3 1 2

4349 面徳斎夫成(めんとくさいそれなり)?- ? 江後期戯作者/合巻；南仙笑楚満人門、
1804「敵討思乱菊」/「源家再興談」/05「敵討金糸之詰縫」/「富士日記曾我社」/06「敵討旭霜解」、
1807「敵討代九郎話」08「復讐談御菩薩池みぞろがいけ」著

[面徳斎夫成(；号)の別号] 物毎夫成もごとのそれなり

4359 綿綿(めんめん・早川はやかわ) ? - ? 江後期；歌人、甲斐医者早川漫漫(広海)の一族？

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、甲斐医者早川漫漫(広海/1775-1830)の一族？

[風吹けば月の光もますらをがさげはく太刀のさやに見えけり](大江戸倭歌；秋836)